

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	: KURE フュエルシステム 水抜き剤 ガソリン車専用
製品分類	: ガソリン車専用水抜き剤
推奨用途	: 四輪ガソリンエンジンの燃料タンク内の水分や湿気の除去
使用上の制限	: 推奨用途以外に使用しない
製品番号	: 2022
整理番号	: 2022-6

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名	: 呉工業株式会社
住所	: 〒153-0043 東京都目黒区東山1-16-13
担当部門	: 商品部
電話番号	: 03-5773-2344
緊急連絡電話番号	: 03-5773-2344
作成者	: 商品部
作成日	: 2009年1月30日
改訂日	: 2024年4月4日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分2
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性(吸入: 蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入: 粉塵/ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1 (全身毒性、中枢神経系) 区分3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 (血液系) 区分2 (呼吸器、肝臓、脾臓)
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性 :

水性環境有害性 短期(急性)
水性環境有害性 長期(慢性)
オゾン層への有害性

分類できない
分類できない
区分に該当しない

ラベル要素
絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

: 危険

:
引火性の高い液体および蒸気
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

:
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のものから遠ざけること。—禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所で使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

:
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
火災の場合: 消火するために炭酸ガス、泡、粉末、砂を使用すること。

【保管】

:
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

:
内容物/容器を各都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

含有成分及び含有量

化学名	含有量wt%	CAS No	安衛法*	PRTR法
イソプロピルアルコール	>90	67-63-0	該当	非該当
防錆剤	<5	非公開	非該当	非該当

*: 労働安全衛生法の通知対象物質

※上記濃度%は営業上の秘密に該当する為、令和6年4月1日施行の労働安全衛生規則34条の2の6に基づき幅記載とした。

-
4. 応急措置
- 吸入した場合 : 多量に蒸気・ミスト等を吸い込んだ場合、直ちに空気の新鮮な場所に移し、新鮮な空気を吸わせる。症状により速やかに医師の診断を受けること。
 - 皮膚に付着した場合 : 石鹸水で十分に洗浄すること。外観の変化、痛みがある場合には、速やかに医師の診断を受けること。
 - 目に入った場合 : 直ちに清浄水で15分以上洗眼し、異常がある場合は医師の診断を受けること。
 - 飲み込んだ場合 : 水で良く口の中を洗浄する。直ちに医師の診断を受けること。
無理に吐かせないこと。
-
5. 火災時の措置
- 適切な消火剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、砂
 - 使ってはならない消火剤 : 棒状の水を使用してはならない。冷却目的で霧状の水は使用してもよい。
 - 消火方法 : 可燃性のものは周囲から速やかに取り除くこと。
火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
消火作業の際は、保護用具を着用して、風上から行うこと。
大規模火災には泡消火剤を使用すること。
 - 消火を行う者の保護 : 適切な保護用具(耐熱服、手袋、呼吸保護マスク等)を着用すること。
-
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 保護用具を着用して作業を行い、蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。
漏出した場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
屋内で漏出した場合は、十分に換気を行う。
 - 環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の
方法及び機材 : 漏出区域周辺を洗浄した洗浄液を、地面や排水溝等公共用水域に流さないよう注意する。
付近の着火源、高温体、可燃物を素早く取り除く。
少量の場合、砂等の不燃性のものに吸収させて、密閉できる容器に火花が発生しない用具を使用して回収する。
多量の場合は、土のうなどで流出を防ぎ、安全な場所に導いてから密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
回収廃棄物は自ら処理するか、又は許可を受けた産業廃棄業者等に委託して処理する。
-
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い : 労働安全衛生法等の関連法規に準じて作業する。
 - 技術的対策 : 火気、スパーク、高温体の周囲で使用しないこと。
他の容器に移し替えない。
熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
 - 安全取扱注意事項 : 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しない。
密閉された場所で使用する場合は、局所排気装置を設け、適切な保護用具を着用すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
 - 接触回避 : 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、眼に入らぬよう保護用具を着用する。
 - 衛生対策 : 取扱後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まないこと。
 - 保管 : 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
 - 安全な保管条件 : 容器を密栓する事。
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
湿度の低い環境で保管すること。
施錠して保管すること。
屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。
子供の手の届かないところに保管すること。
 - 安全な容器包装材料 : 特になし
-

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度 :

成分	許容濃度	
	日本産業衛生学会	ACGIH
プロピルアルコール	400 ppm	200 mg/m ³ (TWA)

—：規定値・勧告値等のデータなし、あるいは知見なし

設備対策

- ： 取扱い設備は防爆型を使用する。
- ： 静電気放電に対する予防措置を講ずる。
- ： 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設ける。
- ： 屋内作業で使用の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により蒸気などの暴露を避けられるような設備とする。

保護具

- ： 呼吸用保護具
- ： 必用に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。
- ： 手の保護具
- ： 耐油性手袋等の保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋を着用する。
- ： 眼の保護具
- ： 必用に応じて防護眼鏡を使用する。
- ： 皮膚及び身体の保護具
- ： 必用に応じて耐油性手袋、保護衣を使用する。
- ： 特別な注意事項
- ： 導電性安全靴を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

	内容
物理状態	透明液体
色	無色
臭い	特異臭
融点/凝固点	—
沸点または初留点及び沸点範囲	—
可燃性	—
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	—
引火点	13.5 °C
自然発火点	—
分解温度	—
pH	—
動粘性率	—
溶解度	水に易溶
蒸気圧	—
密度及び/又は相対密度	0.79 g/cm ³ (20°C・代表値)
相対ガス密度	—
粒子特性	—

—：対象外またはデータなし

10. 安定性及び反応性

- ： 反応性
- ： 酸化性なし、自己反応性なし、自然発火性なし
- ： 化学的安定性
- ： 通常の条件下で安定
- ： 危険有害反応可能性
- ： 有用な情報なし
- ： 避けるべき条件
- ： 加熱
- ： 混触危険物質
- ： 強酸化剤、強アルカリ
- ： 危険有害な分解生成物
- ： 燃焼の際は、一酸化炭素を発生する恐れがある

11. 有害性情報

物質名	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入：気体)	急性毒性 (吸入：蒸気)	急性毒性 (吸入：粉塵/ ミスト)
イソプロピルアルコール	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない
防錆剤	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない

物質名	皮膚腐食性 /刺激性	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	呼吸器感受性	皮膚感受性	生殖細胞 変異原性
イソプロピルアルコール	分類できない	区分2	分類できない	分類できない	分類できない
防錆剤	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

物質名	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器 毒性(単回ばく露)	特定標的臓器 毒性(反復ばく露)	誤えん有害性
イソプロピルアルコール	分類できない	区分2	区分1 (中枢神経系、 全身毒性) 区分3 (気道刺激性)	区分1 (血液系) 区分2 (呼吸器、 肝臓、脾臓)	分類できない
防錆剤	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

12. 環境影響情報

生体毒性 : 情報なし
 残留性・分解性 : 情報なし
 生体蓄積性 : 情報なし
 土壌中の移動性 : 情報なし
 成分の水生環境有害性情報 :

物質名	水生環境 有害性 短期(急性)	水生環境 有害性 長期(慢性)	オゾン層への 有害性
イソプロピルアルコール	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
防錆剤	分類できない	分類できない	区分に該当しない

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物 : 廃棄は、各自治体の条例に従って行う。
 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は許可を受けた産業廃棄業者等に委託して処理する。
 汚染容器及び包装 : 必ず中身を使い切り、中身がないことを確認して、各自治体の条例、関連法規に基づいて廃棄する。

14. 輸送上の注意

国連番号及び国連分類

国連番号 : 1219
国連輸送名 : イソプロパノール
国連分類 : クラス3
容器等級 : II

輸送または輸送手段に関する特別の安全対策 :

輸送の際は、容器漏れの無いことを確かめ、荷崩れのないように処置を講ずる。

引火性液体の為「火気厳禁」

国内規制がある場合の規制情報

共通 : 取扱及び保管上の注意の各項に従う。
陸上輸送 : 消防法及び道路法などの定めるところに従う。
海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。
緊急時応急措置指針
指針番号 : 129 (引火性液体(極性/水可溶))

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法分類	: 第4類 アルコール類 危険等級II	
労働安全衛生法	: 危険物	引火性の物
	表示対象物質	プロピルアルコール
	通知対象物質	プロピルアルコール
	表示対象物質(令和6年以降施行分)	非該当
	通知対象物質(令和6年以降施行分)	非該当
	有機溶剤中毒予防規則	イソプロピルアルコール (第2種有機溶剤)
	特定化学物質障害予防規則	非該当
	がん原性物質	非該当
	がん原性に係る指针对象物質	非該当
	強い変異原性が認められた物質	非該当
	鉛・四アルキル鉛中毒予防規則	非該当
	安衛則577条の2第2項 濃度基準	非該当
	皮膚等障害化学物質	非該当
P R T R法	: 非該当	
毒物及び劇物取扱法	: 非該当	
高圧ガス保安法	: 非該当	

16. その他の情報

参考文献 : JIS Z 7253 : 2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針 (日化協)
化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂6版
各原料メーカーのSDS

*備考

使用される環境及び条件については、弊社がコントロールできないため、この情報の使用によって直接的または間接的に損失もしくは損害が生じたとしても、弊社はいかなる責任を負わない。

また、本データシートの内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しているが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではなく、新しい知見により改訂されることがある。

全ての化学品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要である。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行うこと。